

## ■ 充実した2学期に！

2学期が始って1週間が経ちました。長い夏休みが終わったばかりでペースがつかめないという人もいるかもしれませんが、心も体も少しずつ「学校モード」に切り替えていきましょう。規則正しい生活をしていくことが大切です。

2学期は気候も良く、学習にスポーツに、読書や文化的な活動に・・・と、それぞれ目標をしっかりと立てて充実した生活をしていけるようにして欲しいものです。特に3年生諸君は、進路活動を本格化させていかなければならない時期になります。「希望進路実現」に向けて、緊張感を持って取り組んでいきましょう。

なお、これからは3年担任の先生方の調査書作成が立て込む時期です。調査書が必要な人は、2週間くらいの余裕を持ってBLENDで申し込みましょう。9月は総合型入試が本格的に始まる時期ですが、各大学や専門学校に送付する志願書も必ず担任の先生や進路指導部の先生にチェックしてもらうようにしてください。締切に間に合わないということのないように早め早めに進めていくことが大切です。



## ■ 3年生の就職希望者へ

3年生で就職を希望する者は、いよいよ応募期間になります。基本的に9月5日(木)から9月9日(月)が企業側に提出する書類の受付期間で、9月16日(月)から採用試験が始まります。今年度は9月14日(土)から9月16日(月)までが3連休となるため、必ずしも9月16日(月)に採用試験が実施されないケースもあるかもしれませんが、しっかり準備をして臨むようにしましょう。

なお、企業側に提出する書類は、①鑑文(※挨拶文です。学校側で準備します)、②調査書(※学校側で準備します)、③履歴書の3点になります。就職を希望するみなさんは、③の履歴書をしっかり準備しておきましょう。特に「志望動機」については、よく考えて200字程度でまとめるようにしましょう。趣味や特技についても、面接官が受験者の人となりを知るために質問してくる可能性がありますので、適当に何となく書くことのないよう注意してください。なお、簡易書留の速達で送るようになりますので、費用として800円程度がかかりますので準備するようお願いいたします。



自衛隊希望者に対しては、夏休み中に応募書類の作成を学校で済ませました。その他、公務員等の希望者は、申込み漏れのないように準備を進めてください。公務員についてはどの分野にしても、かなり高い学力が求められます。最後まで諦めずに問題集などに繰り返し取り組みましょう。

就職試験においては、一般企業、公務員を問わず、面接が最も大事になるかと思えます。しっかり練習しておきましょう。進路指導部としましても、就職希望者に対して、少なくとも最後の確認の面接練習を実施する予定です。それ以外でも、生徒のみなさんから要望があれば、適宜練習に応じますので、積極的な姿勢で臨むようにしましょう。また、多くの先生と練習していただくことで応用が効くかもしれません。普段あまり話したことの無い先生に面接の練習をお願いするのもひとつの方法です。

## ■大学・専門学校への入学試験に向けて

大学、短大、専門学校等を総合型（AO）で受験を希望する生徒は、9月から本格化していきますので準備を進めていきましょう。夏休み中に登校して、「志望理由書」等を作成していた生徒もいましたが、まったく登校しないで2学期を迎えた生徒も多くいるものと思われます。今後、しばらく進路指導室に生徒が殺到することが予想されますが、「志望理由書」などは、担任や進路指導部の先生に早めに確認してもらうようにしましょう。



推薦入試は「指定校制」、「公募制」など種別を問わず、基本的に11月に実施する大学、短大、専門学校が多いものと思われます。その第1回目の「推薦会議」を9月中（※9月上旬を予定）に実施する予定です。該当者が決定したら、要項を配付します（※受験人数が確定した後に各大学等から取り寄せるケースもあります）。総合型も含めてWEB出願の大学、短大、専門学校も増えていますが、よく確認して対応する必要があります。WEB出願といっても、すべてパソコンで入力完了するわけではなく、志望理由書などをダウンロードして、最終的には郵送しなければならないケースがほとんどかと思われます。

最後になりますが、例年本校で最も受験者が多い**東日本国際大学およびいわき短期大学については、受験料が発生しませんので注意してください。**例年、注意喚起しているのですが、納入してしまう人がおり大学側に迷惑を掛けてしまっています。加えて、同大学・短大希望者は、「奨学生申請書」の提出も求められます（※「学生募集要項」に添付されています）。**本校生は、少なくとも「附属高校（奨学生）」になりますが、学業特待生を希望する場合には「学業（奨学生）」になりますし、スポーツ推薦の場合には「スポーツ（奨学生）」になります。**基本的に「附属高校奨学生」よりも「学業奨学生」や「スポーツ奨学生」の方が金額が上回りますので、よく確認して記入するようにしましょう。

## ■ 日本学生支援機構奨学金の予約採用について

日本学生支援機構奨学金の予約採用について、今年度3回目（※本校では2回目）の申込みは夏休み中に完了しています。6月（校内第1回目）で申込んだ人は11月末頃、7月（校内第2回目）で申込んだ人は12月末頃までには結果通知が届くものと思われま

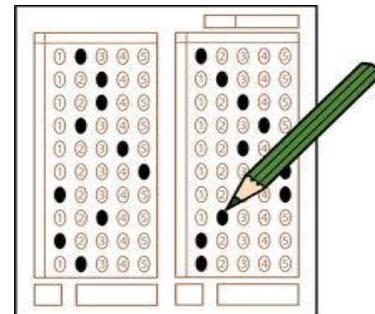


なお、結果通知に沿って、大学、短大、専門学校の入學手続きの際に、所定の手続きを済ませないと申し込んだことにはなりませんので、予めご承知おきください（※予約採用の申込みをしたものの、必要ないとか就職に希望が変わった場合は、所定の手続きをしなければ特に問題ないかと思われま

す）。例年、マイナンバー提出書の未提出で審査が遅れるケースが見られますが、マイナンバーに関しては基本的に学校の方ではタッチできません。今年度は多くの生徒がマイナンバーを保有しているとのことでしたが、一部、保有していない人もおりましたので、日本学生支援機構から問合せがありましたら、速やかにご対応願います。夏休み中に、何らかの不備があつて日本学生支援機構から連絡を受けているご家庭もあるようです。不明な点がありましたら、早めに学校担当者の清水もしくは大和田にお問合せください。

## ■ 適性診断結果を参考に

高校2年生を対象に6月28日（金）に実施したリクルート講演会で適性診断を行いました。その結果が届いています。受検した生徒に配付されたかと思いますが、結果を参考に、今後の進路活動に活かしていきましょう。

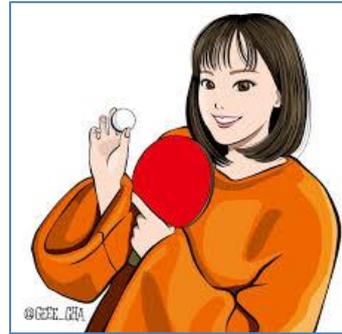


診断結果は、「各自の性格のタイプ」や「各自の強みワード」が記載されており、学問上の適性分野や仕事上の適性分野がグラフ上に示されています。適性診断は客観的なものであり、蓄積されたデータを元にしたものですのでぜひ参考にしてほしいと思います。生徒の中には、希望する学問分野や仕事が自分の思い描いているものとはほぼ一致する形で安心感を覚えた人もいることでしょう。一方で、希望する学問分野や仕事について、「適性がある」と診断された分野以外のものを希望している人もいます。あくまで参考材料ですので、この結果にとらわれる必要はありませんが、自分のことを客観的に判断する良い機会にはしてほしいと思っています。

なお、高校1年生についても、6月7日（金）にリクルート講演会を実施し、その際に行われた適性診断の結果は1学期中に配付しています。やはり、上記のことが記載されているかと思いますが、たまに見直したりしながらぜひ参考にしてください。

## ■ パリ五輪キャスター・石川佳純さんの話

昨年の本紙第4号で、筆者は昨年5月に23年間に及ぶ卓球選手生活にピリオドを打った石川佳純さんについて取り上げました。石川さんをサポートしてきたスポンサー企業が、引退会見の翌日に「あなたを応援して、本当に良かった」という新聞広告を掲載したことから、「今度は、『あなたと仕事をして、本当によかった』とか『あなたに指導してもらって、本当によかった』と言われることになるのでしょうか。きっと」と筆者は期待を込めて書きました。



最近のテレビ等での活躍をみなさんも目にする機会が多いのではないのでしょうか。スポーツ番組のキャスターやコメンテーターをはじめ、旅番組やバラエティー番組、CMにも引っ張りだこです。2012年のロンドン五輪以降、卓球女子団体で3大会連続メダル獲得、世界選手権混合ダブルスでの金メダル獲得をはじめ、卓球競技の実績はもちろんとし、石川さんの明るく親しみやすいキャラクターが多くの人たちに受け入れられていて、卓球関係者としてはうれしい限りです。

さて、7月26日から8月11日まで17日間にわたって開催されたパリ五輪で、石川さんはフジテレビのキャスターを務め、試合結果を伝えるのはもちろん、さまざまな選手にインタビューを試みていました。喜びの金メダル、悔しい銀メダル、金メダル以上の価値がある銅メダル・・・など、各競技で生まれたさまざまなドラマをしっかりと伝えていたのではないかと思います。各競技について、事前によく下調べをして選手の目線に立ち、しっかり言葉を選んでのインタビューは高い評価を得ていたようです。卓球競技の女子シングルスで利き腕の左腕を負傷しながら、韓国選手との銅メダル決戦に勝利した早田ひな選手から先に記した「金メダル以上に価値のある銅メダルだと思う」との言葉を引き出したインタビューは心に残りました。

以前、NHKの『ファミリーヒストリー』で石川さんのことが取り上げられた際には、「負けず嫌いな性格」や「明るさ」などは、先祖から代々の血を受け継いでいることを実感していました。勝負には向いている性格のようです。今回のパリ五輪でのキャスターとしての経験が何らかの形で活かされ、新たな活躍の場を獲得していくことが期待されます。

それにしても、今回のパリ五輪はセーヌ川を船で移動しての開会式や歴史的な建造物やその近辺での競技開催など、パリのまちの魅力を存分に感じた大会でした。セーヌ川の水質悪化などさまざまな問題もあったのですが、100年ぶり3回目の開催となったパリ五輪は印象に残る大会となりました。

文責：清水聖（進路指導主事）